

令和7年度第2回 秦野駅北口周辺にぎわいのあるまちづくり会議

- 目 次 -

1 秦野市中心市街地活性化基本計画について

- (1) 定期フォローアップの実施に向けた目標指標の年次調査結果について
- (2) 各目標指標の調査結果詳細について

2 基本計画に位置付ける重点事業の進捗状況について

秦野市多世代交流施設整備基本構想案の概要について

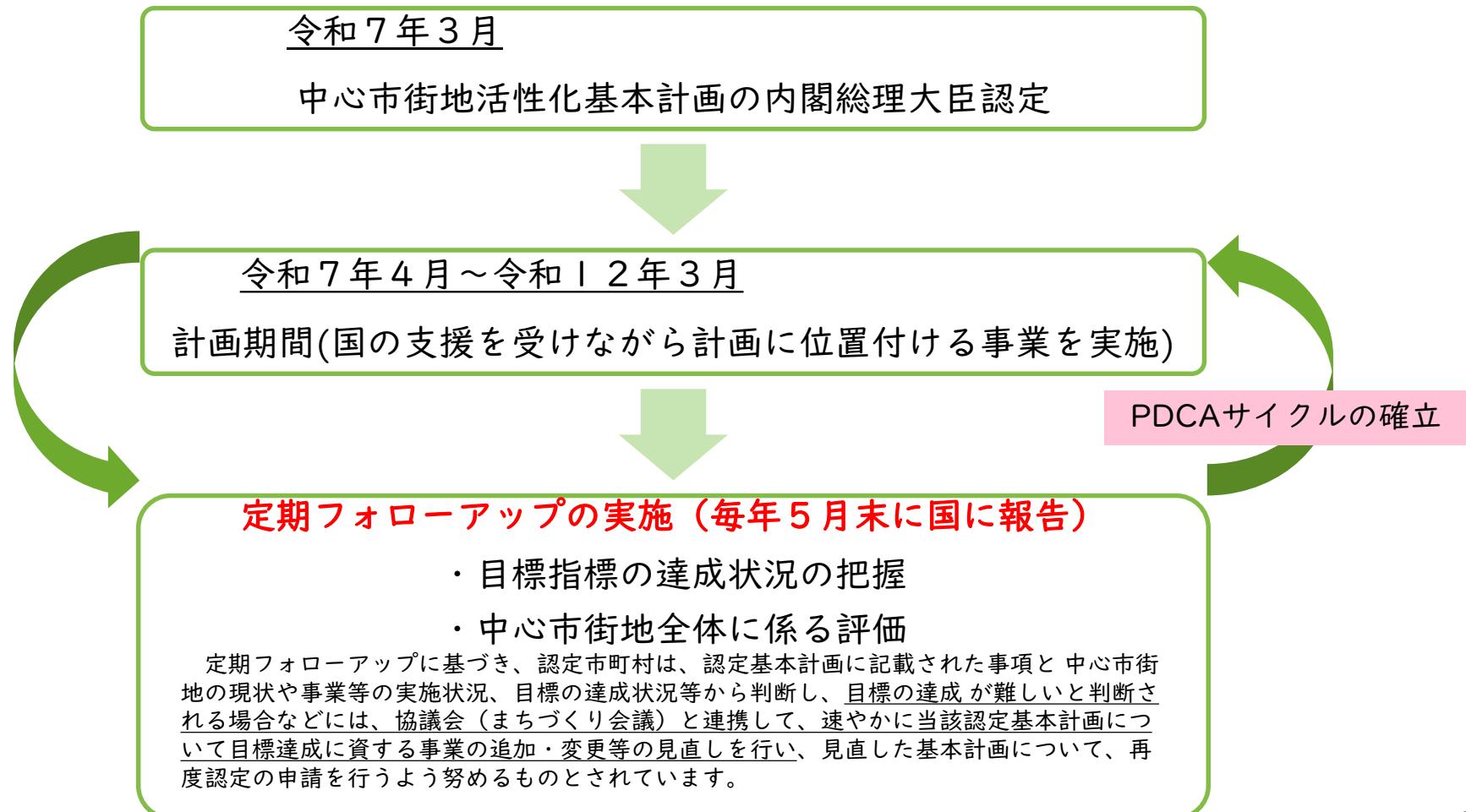
3 中小企業基盤整備機構による支援・連携について

- (1) 中小機構による支援策の活用目的について
- (2) 令和7年度の取組み経過について
- (3) 今後の取組み内容について

1 秦野市中心市街地活性化基本計画について

(I) 定期フォローアップの実施に向けた目標指標の年次調査結果について

国の定める「中心市街地の活性化を図るための基本的な方針」では、基本計画の認定を受けた市町村は、認定基本計画に記載された取組の着実な実施を通じて、中心市街地の活性化が実現できるよう、毎年、定期フォローアップを行うこととされています。



1 秦野市中心市街地活性化基本計画について

(1) 定期フォローアップの実施に向けた目標指標の年次調査結果について

中心市街地の将来像「－名水と歴史がつなげる未来－ しなやかなまちなか暮らし」の実現を目指し、計画に位置付ける事業に取り組みます。

目標指標である交流創出事業数の増加を図ることで、中心市街地における休日、平日の通行者数やアクティビティ数の増加、しいては営業店舗数の拡大や居住満足度向上などの相乗効果により日常のにぎわいを創造します。

基本方針	目標	目標指標	基準値	令和7年度実績	目標値
方針① 人の交流・活動が 生まれるまち	目標① 交流人口の拡大	指標① 交流創出事業数 (回/年)	34回/年 (R5)	53回/年	109回/年 (R11)
方針② “はだの”ならではの 楽しみがあり、歩き たくなるまち	目標② 歩道及び滞在空間 の快適性の向上	指標②－1 通行者・滞在者数 (人)	平日65人 休日56人 (R4)	平日85人 休日74人 (R7)	平日108人 休日98人 (R11)
		指標②－2 滞在者のアクティビ ティ数 (件)	6件 (R4)	9件 (R7)	11件 (R11)
方針③ 便利で快適で住み続 けられるまち	目標③ 生活利便性の向上	指標③－1 中心市街地営業 店舗数 (店舗)	150店舗 (R4)	162店舗 (R7)	154店舗 (R11)
		指標③－2 居住満足度 (%)	85% (R5)	88% ※	88% (R11)

※ 基準値の調査方法とは異なるwebアンケート結果のため参考値とする。

1 秦野市中心市街地活性化基本計画について

(2) 各目標指標の調査結果詳細について

目標指標1 交流創出事業数（令和7年度実績 53回）

基本方針の「人との交流・活動が生まれるまち」を踏まえ、「交流人口の拡大」の効果検証として、多世代が行き交う中心市街地とするために開催されるイベントやセミナー、生涯学習講座などの実施回数を目標指標として設定する。

調査方法は、1年間に中心市街地で実施された「交流創出事業数」とする。

令和7年度交流創出事業開催実績及び開催予定事業

実施主体	事業名	実施回数（予定含む）
丹沢日和70GO秦野駅マルシェ実行委員会	丹沢日和70GO秦野駅マルシェ	7回 (5月、10月は雨天中止)
丹沢日和nature activity base	トレイルランニング及びランニングイベント、ドキュメンタリー映画上映会等	10回 (4月～11月)
上宿観音縁日実行委員会	上宿観音縁日	10回 (4月、8月は雨天中止)
秦野市観光ボランティアの会	観光ボランティアと歩こう（軽便の道を歩く、湧水めぐり等）	11回
・丹沢日和nature activity base ・はだのcommon	はだのすまいるふえす@秦野駅	1回（5月）
秦野駅前通り商店街	秦野駅前通り商店街夏祭り（水無川沿い空間活用事業）	1回（8月）
花みずき通り商店会	地蔵まつり（夏・冬）	2回
秦野駅前通り商店街	秦野駅前通り商店街ハロウィン&オクトーバーフェス（水無川沿い空間活用事業）	2回（10月）
秦野たばこ祭実行委員会	秦野たばこ祭	2回（9月）
秦野市(主催)、ハローワーク松田(共催)	子育て世帯就職相談会	1回（10月）
丹沢日和フェスティバル実行委員会	丹沢日和フェスティバル	1回（11月）
神奈川大学都市計画研究室	神奈川大学ペイントワークショップ	1回（11月）
神奈川よさこいまつり実行委員会	神奈川よさこいまつり（水無川沿い空間活用事業）	2回（11月）
—	だるま市	1回（12月）
秦野市商店会連合会	OMOTAN朝市（水無川沿い空間活用事業）	1回（3月）

1 秦野市中心市街地活性化基本計画について（交流創出事業・水無川沿い市道6号線）

より多様な主体による水無川沿いの活用へ（R7.11 よさこいまつり、R8.3 OMOTAN朝市）

民間での自走化

R7.10

秦野駅前通り商店街 ハロウィン

【来場者数】3,200人（2日間）※土曜日は雨天決行

【主な内容】歩行者天国（約40店が出店）、カラオケ・仮装コンテスト、路上落書きコーナー



R7.8

秦野駅前通り商店街 夏祭り

【来場者数】2,800人/日 ※日曜日は雨天中止

【主な内容】歩行者天国（約40店が出店）、ステージ、水遊び等の場の設置



R7.3

OMOTAN朝市

秦野市商店街連合会主催によるイベントの開催

【来場者数】5,000人/日

【内容】歩行者天国（約50店が出店）、ステージ、電子地域通貨を活用した抽選会



行政主体 R7.1

一方通行規制を伴う交通社会実験

歩行者中心の公共空間の確保と活用、駅前交通についての検証を実施

【主な内容】車道の片側交通規制、歩行者専用道への転用



R6.8

はだののミライラボ 第3回

持続可能な仕組みづくりと回遊性向上を目的に、地元商店街と連携して実施した社会実験

【来場者数】2,000人/日

【主な内容】歩行者天国（約30店が出店）、河川敷の滞留空間形成、商店街事業との連携、スタンプラリーの実施



R5.11

はだののミライラボ 第2回

ビジョンで示す水無川沿いの居心地の良い空間形成を目的とした社会実験

【来場者数】2日間 計2,800人（土曜：1,400人、日曜：1,600人）

【主な内容】歩行者天国（約20店が出店）、河川敷の滞留空間形成、音楽ステージ



R5.7

はだののミライラボ 第1回 《参考》

県道705号沿いで多世代が交流する場の創出に向けたニーズ把握を目的とした社会実験

【来場者数】275人

【主な内容】屋内での交流機会創出（幼児体操、ヨガ教室ほか）、屋外の滞留空間形成

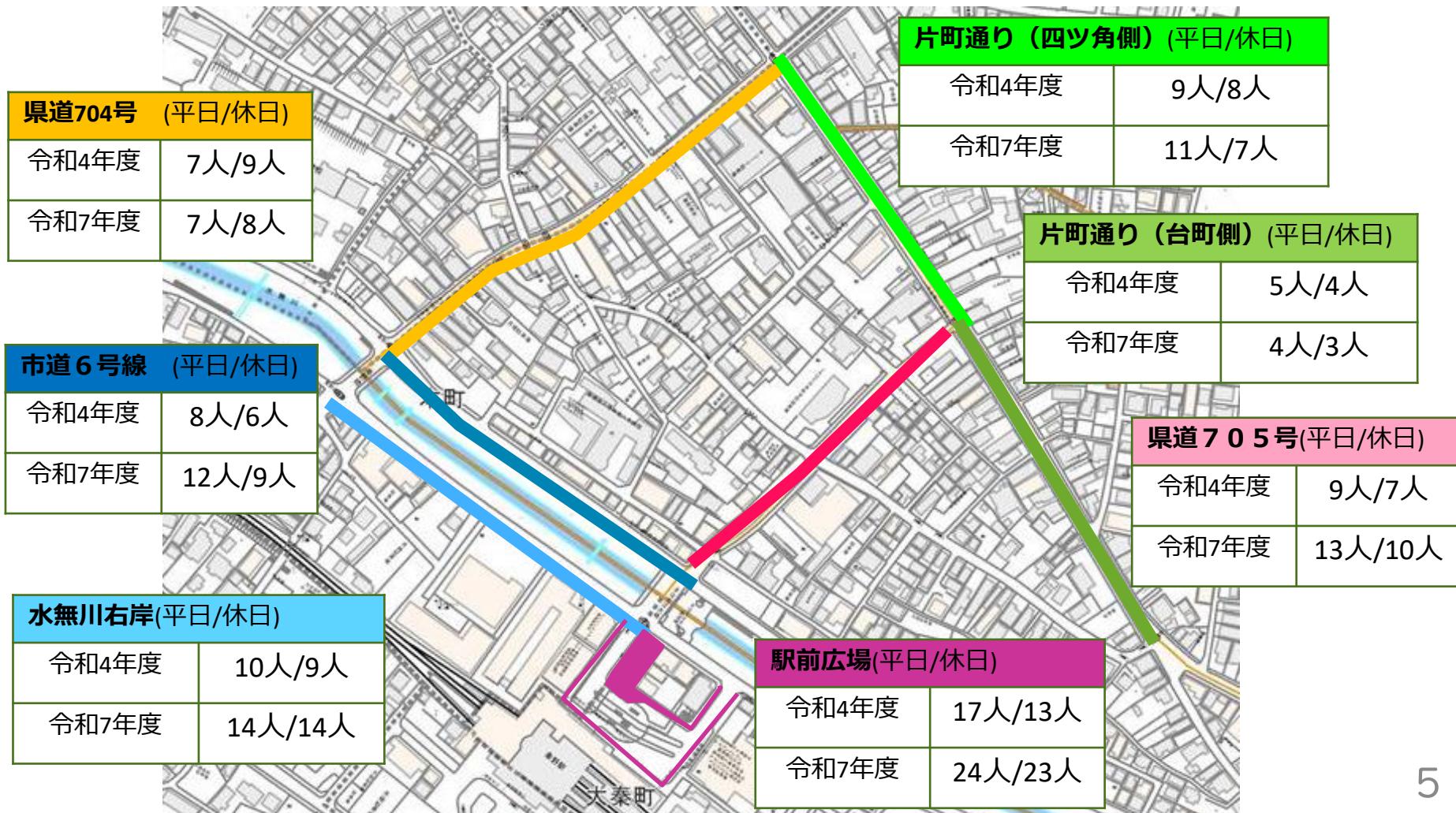
1 秦野市中心市街地活性化基本計画について

(2) 各目標指標の調査結果詳細について

目標指標2－1 通行者・滞在者数（令和7年度実績 平日85人/休日74人）

基本方針の「“はだの”ならではの楽しみがあり、歩きたくなるまち」を踏まえ「歩道及び滞在空間の快適性の向上」の効果を検証するために、「通行者・滞在者数」を目標指標として設定する。

調査方法は、国土交通省「まちなかの居心地の良さを測る指標」を用いて、午前8時から午後6時までの2時間おきに各調査地点において3分間で目の前を通過した人数の平均人数の合計値とする。



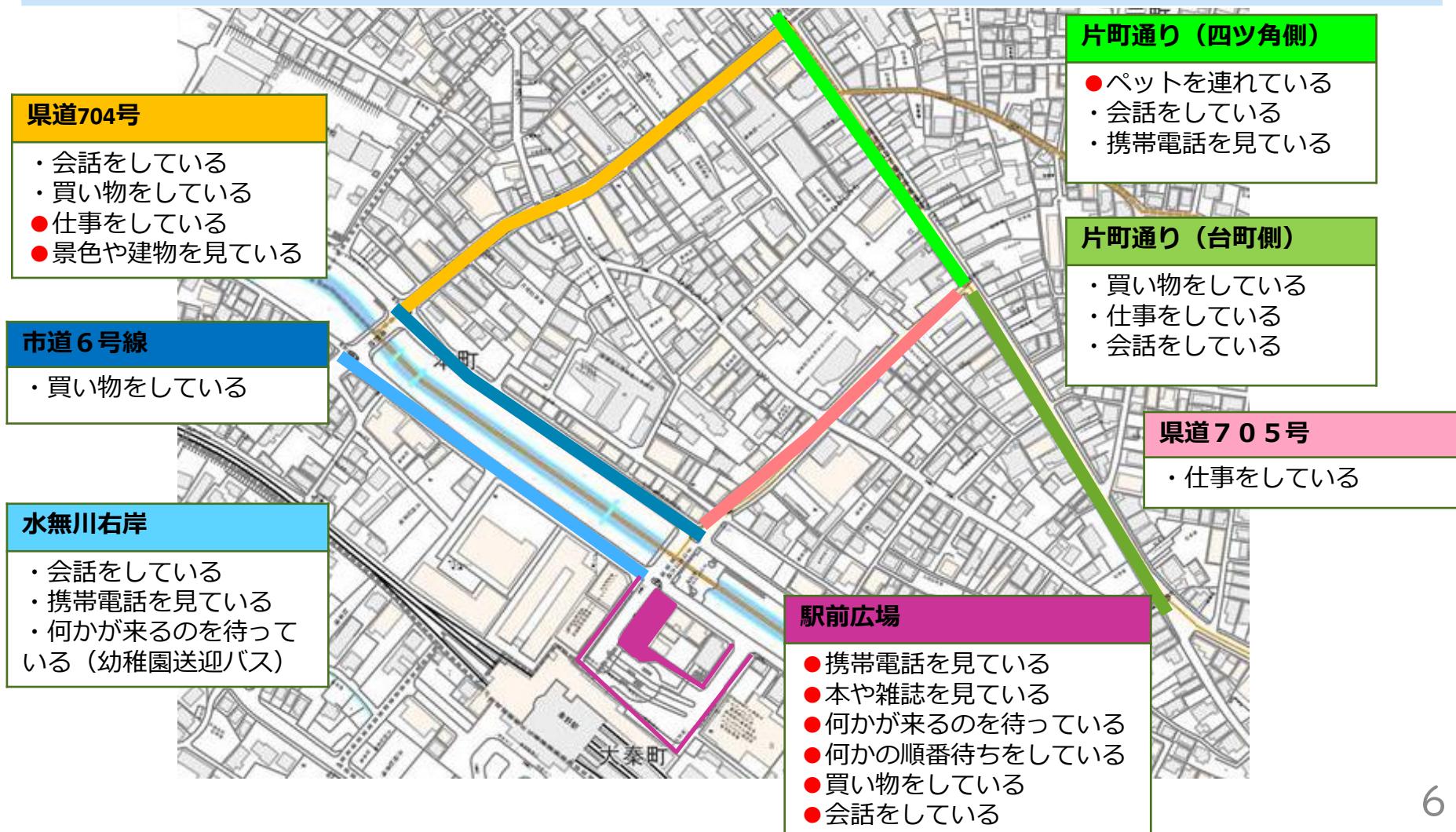
1 秦野市中心市街地活性化基本計画について

(2) 各目標指標の調査結果詳細について

目標指標 2－2 滞在者アクティビティ数（令和7年度実績 9件 ※重複を除く）

基本方針の「“はだの”ならではの楽しみがあり、歩きたくなるまち」を踏まえ「歩道及び滞在空間の快適性の向上」の効果を検証するために「滞在者のアクティビティ数」を目標指標として設定する。

調査方法は、国土交通省「まちなかの居心地の良さを測る指標」を用いて、午前8時から午後6時までの2時間おきに、各調査区域におけるアクティビティの有無を確認する。



1 秦野市中心市街地活性化基本計画について

(2) 各目標指標の調査結果詳細について

目標指標3-1 中心市街地営業店舗数（令和7年度実績 162店舗）

基本方針の「便利で快適で住み続けられるまち」を踏まえ、「生活利便性の向上」の効果を検証するために、「中心市街地営業店舗数」を目標指標として設定する。調査方法は、各調査区域における沿道の営業店舗数とする。

県道704号	
令和4年度	37
令和7年度	38
増減理由	飲食店の出店



片町通り（四ツ角側）	
令和4年度	20
令和7年度	17
増減理由	物販店の移転

市道6号線	
令和4年度	21
令和7年度	23
増減理由	物販店及びサービス業の出店



片町通り（台町側）	
令和4年度	15
令和7年度	17
増減理由	サービス業の出店

水無川右岸	
令和4年度	12
令和7年度	18
増減理由	サービス業の出店



駅前広場	
令和4年度	26
令和7年度	27
増減理由	駅テナントの出店

県道705号	
令和4年度	19
令和7年度	22
増減理由	飲食店及び物販店の出店

2 基本計画に位置付ける重点事業の進捗状況について



2 基本計画に位置付ける重点事業の進捗状況について

秦野市多世代交流施設整備基本構想案の概要について

(1) 構想策定の目的

秦野駅北口周辺まちづくりビジョンでは、県道705号の沿道に多様な人々が集まり、交流が生まれる市の中核となる拠点を形成し、その効果が周辺に波及することを目指すこととしました。

そこで、多世代交流施設の実現に向け、基本方針や導入する機能、事業手法等の方向性を示し、市民の皆様と共有するため、本構想を策定するものです。

(2) 施設のコンセプト・基本方針

はだのでの様々な出会いや学びを育む交流拠点

(3) 基本方針

基本方針1 「交流機会の創出」

市民活動やイベント開催を支援し、多世代・多分野の交流を促進します。

また、自主企画や定期的なワークショップを通じて、市民の主体的な参加を促します。

基本方針2 「学びや仕事の場の創出」

学習・ワークスペースや図書機能を整備し、幅広い世代に学びや気づきの場を提供します。

また、リモートワークや起業支援の拠点としても活用し、地域経済の活性化を図ります。

基本方針3 「子育て支援の場の創出」

こどもの遊び場や子育てサービスを充実させ、安心して過ごせる親子の交流拠点をつくります。

また、子育て相談窓口を設置し、地域全体で子育てを支えます。

基本方針4 「魅力や活動の発信」

地域の魅力や活動情報をデジタルサイネージなどを活用して発信します。

また、観光客や来訪者への情報提供を充実させ、市民の活動成果を広く共有できる展示・情報共有スペースを整備します。

2 基本計画に位置付ける重点事業の進捗状況について

秦野市多世代交流施設整備基本構想案の概要について

(4) 導入機能イメージ

「こども・子育て」「学び・知育」「創造的活動」「市民活動／起業・就労」「魅力情報発信」の5つの機能を軸に、それぞれが連携することで多世代の交流を促進します。



(5) 整備区域

拡幅整備が進む県道705号沿いの本町二丁目地内約0.4haの図示の範囲を整備区域とします。



(6) 実現に向けた具体方策

ア はだのこども館の機能を移転

はだのこども館（昭和45年建築）について、公共施設保全計画に定める試算終了年（令和4年）を過ぎており、建物及び設備の老朽化が著しいことや、現状より駅に近い場所への移転を求める意見が多いことから、その機能を移転して利用者利便性の向上を図ります。

イ 図書のある空間を整備

図書のある空間を整備し、幅広い年代からのニーズに応えるとともに、こども・若者の居場所づくりのほか、文化・生涯学習・市民活動につながる学びの提供など、文化的な生活の充実に貢献します。

ウ ハローワーク（公共職業安定所）の入居

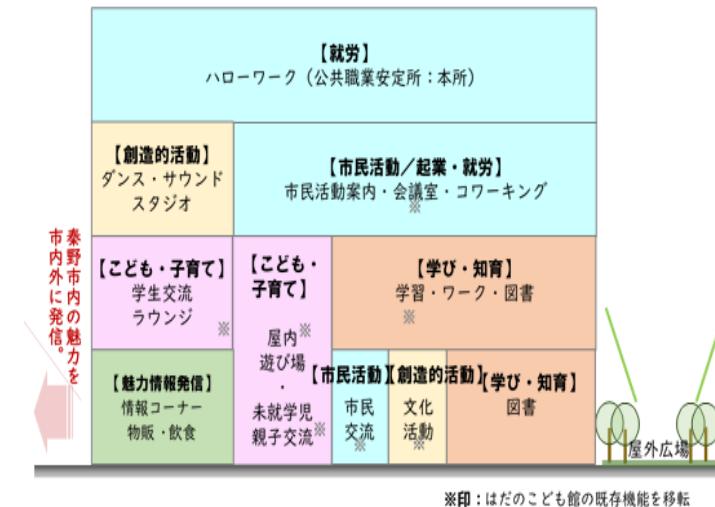
ハローワーク（公共職業安定所＊本所）の入居により、国の機関と連携した就労支援の充実を図ります。

2 基本計画に位置付ける重点事業の進捗状況について

秦野市多世代交流施設整備基本構想案の概要について

(7) 多世代交流施設のイメージ

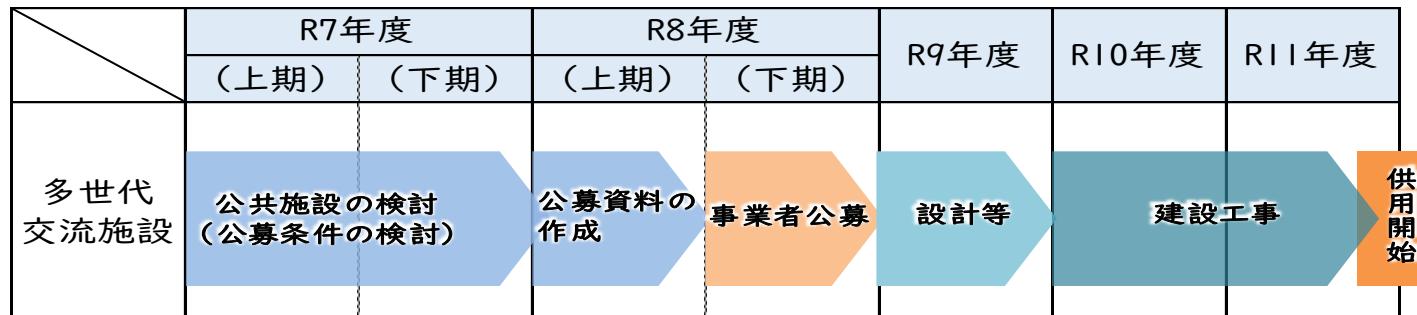
■多世代交流施設のイメージ



(8) 施設の概要

事業区域	約4,000平方メートル
敷地面積	約3,300平方メートル (新設予定道路を除いた面積)
延べ面積	約5,000平方メートル
建築面積	約1,500平方メートル
構 造	鉄筋コンクリート造
階 数	地上3～4階建て
事 業 費	約40億円 社会資本整備総合交付金、中心市街地再活性化特別対策事業（特別交付税）などを活用

(9) 想定スケジュール



(10) 令和7年度の今後のスケジュール

- 令和7年10月17日～11月16日
「秦野市多世代交流施設整備基本構想案」パブリック・コメントの実施
- 令和7年10月～11月
建設、設計及び運営に係る各事業者へのヒアリング調査の実施

3 中小企業基盤整備機構による支援・連携について

(1) 中小機構による支援策の活用目的について

継続的なにぎわいの創出を図るためにには、まちづくりに意欲を持つ人や多様なプレイヤーなどがつながり、自走可能な組織が必要であることから、中小機構の支援策を活用し、まちづくり専門家による助言を受けながら方向性を検討していきます。

(2) 令和7年度の取組み経過について

支援措置名	実施日	参加者	内容
中小機構事務局による現地視察	令和7年5月12日	中小機構事務局、秦野駅北口にぎわい創造担当、産業振興課	秦野市中心市街地活性化基本計画の概要説明及び現地視察
専門家とのオンライン相談	令和7年6月4日	伊藤大海 氏、中小機構事務局、秦野駅北口にぎわい創造担当、産業振興課	まちの課題に対するヒアリングとアドバイス →秦野市の課題の整理（プレイヤーの発掘や育成、エリアマネジメント組織づくりなどを行うべき）
専門家との意見交換会	令和7年9月2日	伊藤大海 氏、中小機構事務局、まちづくりの担い手（商店街等）、秦野駅北口にぎわい創造担当、産業振興課	専門家とまちづくりの担い手との意見交換 →エリアマネジメント会社の取組み内容や設立の目的、未来図づくりによるまちのプレイヤー発掘、産業人材育成の効果などの説明、事例紹介

(3) 今後の取組み内容について

- 専門家との意見交換会
- まちのプレイヤーの発掘やエリアマネジメント等に係る勉強会の開催

まちづくり専門家 伊藤 大海 氏

- 1976年2月 佐賀県生まれ東京育ち 東京都日野市在住
- 独) 中小企業基盤整備機構 アドバイザー
愛知県半田市中心市街地活性化市長特任顧問
中小企業診断士（平成14年登録）
まちづくりLand for Next Generation代表
- 中心市街地活性化に取り組む地域の事業計画策定支援やプロジェクトのディレクション・助言（愛知県豊田市、三重県伊賀市、青森県八戸市、むつ市等）



伊藤 大海 氏



専門家との意見交換会の様子